

【外国語学部】令和6年度 FD活動の「年間報告」

1. 学部独自のFD活動についての報告 (*は必須項目)

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：「外国人への観光案内プロジェクト」

・科目：外国語学部 PBL

・担当教員：今西、下田、伊ヶ崎

・実施日時/場所：

1回目：10月31日 S203

2回目：11月27日 S203

3回目：2月5日 S202

・参加人数：対面：8名、オンライン61名、学生：4名

概要：

学部教育活性化支援事業として行った「外国人への観光案内プロジェクト」（「外国語学部PBL」の一つとして来年度開講を予定）において、実務翻訳や観光通訳に従事している翻訳の専門家を計3回招聘、翻訳・通訳業務における生成AI・機械翻訳の利活用についての講義を実施し、公開授業とした。なお、講義は録画し、対面で出席ができない教員も後日視聴できるようにした。

講義を通じて、外国語学習における生成AI、機械翻訳の有効な活用法についての知見を得ることができた。また、MS Forms等で教員の意見や感想を共有し、学部改革に向けた新たな外国語学習法の検討につなげることができた。

②ワークショップ：

・参加人数 10名（教員6名、学生4名）

・ワークショップでの意見交換内容

ChatGPTやDeepLをはじめとする大規模言語モデルのAIや翻訳アプリの進展により、新たな言語学習の方法が検討されている。実際にVascoという翻訳機を使ったやりとりなどを実施し、翻訳機の有効活用の可能性とその活用方法について話し合った。

外国人観光客の集客の方法として、ウェブでの観光プラットフォームの活用について学んだ。アイデア次第では収益可能なプランも提供でき、様々な可能性について情報を共有できた。

(3) その他研修会等

・テーマ：高校英語教育の現状について

・概要：8月21日に「高校英語教育の現状について」と題し、滋賀県私立光泉カトリック高等学校の英語教諭である松村優花氏を招聘し、本学に入学を検討している層の生徒の外国語（英語）学習の実情とそれを踏まえた今後の英語教育の在り方についてお話を伺った。あわせて、本学教員が海外日本語教育事情をテーマとし、近年の言語（外国語）教育の潮流を共有した。これらを踏まえ、教員間のワークショップを開催し、学部改革に向けた新たな外国語教育の質的転換の可能性について共通認識を深める機会とした。

・実施日：8月21日

・参加人数 35名

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

本学 OG の高校教諭との情報交換では、今後入学する学生の特徴について多くの学びを得ることができた。学生気質の変化に対応できるような新たな教授法を取り入れることが急務であるとの認識を共有できた。

学生が責任を持ち主体的に学ぶことが求められる PBL 科目では、学生の発想次第で多様な活動や成果を生み出すことが可能となる。インバウンドの外国人観光客を対象とした PBL においては、ウェブ上のプラットフォームを活用し、京都の観光地を案内するだけでなく、京都市内の各種リソースを活用した体験型観光の提供も実現でき、様々な学びの可能性を実感することができた。

さらに、外国語学習における生成 AI、機械翻訳ツールの利活用を検討していくための基本的な知見を得ることができた。

3. 次年度に向けての取り組み

次年度の R9 改革に向け、外国語学習に関わる授業内容の検討、及び新たな教授法の導入が喫緊の課題である。特に、AI デジタル技術を活用した教授法に関する取り組みをテーマとした FD を優先的に実施する予定である。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。